寄　稿

“龍馬伝”と長崎、「これまで」そして「これから」

NHK長崎放送局

局　長　合田（ごうだ）　敏行（としゆき）

1958年　東京生まれ
1980年　東京大学文学部卒業
1980年　NHK入局
1988年　NHKアナウンス室
2005年　NHK秘書室
2009年　NHK長崎放送局　局長

長崎が大河ドラマの舞台になった日

去る７月18日は“龍馬伝”の第３シーズンの始まる日、いよいよドラマの舞台が長崎になる日でした。夕刻「長崎まちなか龍馬館」前の観光通りアーケードに設置した大型テレビの前に大勢の方たちが集まり、オンエアを心待ちにしていました。

午後６時、衛星ハイビジョンによる放送で第29回「新天地、長崎」が始まりました。崇福寺、グラバー邸といった長崎の方々にとってなじみの深い風景に目を輝かせたり、エキストラとして映る知人の姿を探したり、ドラマのストーリー展開を追うだけでない忙しいあっという間の45分が過ぎました。番組の最後に流れる「龍馬伝紀行」で紹介された丸山界隈の様子を皆さんなごやかな表情でご覧になっていました。番組が終わると自然に拍手がアーケードをつつみました。テレビドラマを見て拍手をする姿は、めったに見ない光景です。それだけ、長崎の方々が“龍馬伝”がこの街にやってくる日を、首を長くして待っていらっしゃったのだと実感しました。その喜びが長崎の街に拡がった日でした。

ロケ風景（長崎市崇福寺）

始まりは２年前

「龍馬伝」という言葉が登場したのは２年前、2008年６月です。

2010年の大河ドラマの制作発表が行われ、タイトルは“龍馬伝”、「岩崎弥太郎の視線か

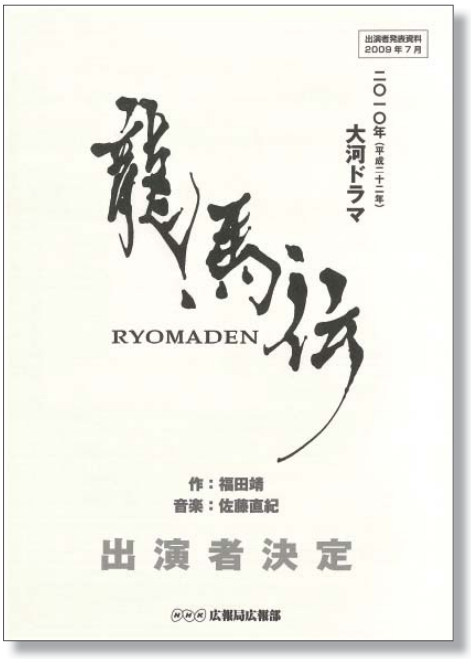
ら描くオリジナル作品」になるというものでした。その時の資料では、坂本龍馬を「『世界の海援隊』を夢見た士魂商才の男」とし、岩崎弥太郎を「龍馬に憧れ、龍馬を憎み、龍馬を愛した男」と表現しています。長崎で「世界の海援隊」を夢見た龍馬と、長崎でその志を引き継いだ岩崎弥太郎のドラマということで、長崎の方々にとっての第一の朗報でした。

９月には県をはじめ県内の市町や観光関係団体などを中心に「大河ドラマ『龍馬伝』長崎県推進協議会」が発足し、「長崎県のイメージアップと観光客の誘致促進並びに経済の活性化」に取り組むことになりました。県全体が“龍馬伝”で長崎を元気にしようと動き出しました。

福山龍馬に決定

長崎にとって次なる朗報は2008年11月に届きました。長崎市生まれの福山雅治さんが主役の龍馬を演じると発表されました。ミュージシャンとして、俳優として、国民的人気を集める福山さんがNHKドラマで初主演、それが長崎と縁の深い大河ドラマ“龍馬伝”です。主役決定を受けて、福山さんは「これからの１年をかけて十分な準備をし、2010年という時代だからこそ表現できる『坂本龍馬』を作り上げてみたいと思います」というメッセージを出しました。

この時期の福山さんの活動を見ると、故郷長崎を意識したものが多くあります。直前の４、５月には、長崎県美術館で写真展を開き、



７万人が来場しました。また2009年夏には稲佐山公園野外ステージでライブを開催しました。タイトルは故郷への恩返しにもかけて「音返し」。福山さんの故郷によせる気持ちの高まりと“龍馬伝”の制作が時期的重なったことも、長崎にとってよかったと感じています。

大河と龍馬

大河ドラマは昭和38年の「花の生涯」を振り出しに、“龍馬伝”は49作目にあたります。このうち幕末を舞台にした作品は11あります。戦国時代とともに、大河では数多く登場する時代です。昭和43年には司馬遼太郎の原作をもとにした「竜馬がゆく」が放送されました。ですから、今までにない龍馬像を描くことが“龍馬伝”に求められました。これまでの大河には何度も龍馬が登場し、数多くの俳優が演じてきました。「竜馬がゆく」は北大路欣

■NHK大河ドラマ一覧

昭和38年　花の生涯	昭和55年　獅子の時代	平成９年　毛利元就
昭和39年　赤穂浪士	昭和56年　おんな太閤記	平成10年　徳川慶喜
昭和40年　太閤記	昭和57年　峠の群像	平成11年　元禄繚乱
昭和41年　源義経	昭和58年　徳川家康	平成12年　葵 徳川三代
昭和42年　三姉妹	昭和59年　山河燃ゆ	平成13年　北条時宗
昭和43年　竜馬がゆく	昭和60年　春の波濤	平成14年　利家とまつ
昭和44年　天と地と	昭和61年　いのち	平成15年　武　蔵
昭和45年　樅の木は残った	昭和62年　独眼竜政宗	平成16年　新選組！
昭和46年　春の坂道	昭和63年　武田信玄	平成17年　義　経
昭和47年　新・平家物語	昭和64年、平成元年　春日局	平成18年　功名が辻
昭和48年　国盗り物語	平成２年　翔ぶが如く	平成19年　風林火山
昭和49年　勝　海舟	平成３年　太平記	平成20年　篤　姫
昭和50年　元禄太平記	平成４年　信　長	平成21年　天地人
昭和51年　風と雲と虹と	平成５年　琉球の風　、　炎立つ	**平成22年　龍馬伝**
昭和52年　花　神	平成６年　花の乱	平成23年　江
昭和53年　黄金の日々	平成７年　八代将軍 吉宗	
昭和54年　草燃える	平成８年　秀　吉	

也さん。昭和49年「勝海舟」では藤岡弘さん。昭和52年「花神」では夏八木勲さん。夏八木さんは、今回、越前藩主・松平春嶽を演じています。平成に入り、平成２年「翔ぶが如く」では佐藤浩一さん。平成16年「新選組！」では江口洋介さん。記憶に新しい平成20年「篤姫」では玉木宏さんです。こうして見て行くと、野性的な龍馬からだんだんと甘いマスクの龍馬に変わってきたようです。龍馬像が時代とともに変わり、まさに福山雅治さんが龍馬にぴったりの時代が今だと言えます。一方で、福山さんは俳優としてのキャリアを積み充分に大河の主役をはる実力派となっています。つまり、時代が求める龍馬像が福山さんに近づき、福山さんが大河ドラマに近づいてきた、それが今だったといえるでしょう。

期待高まった09年夏

放送開始まであと半年という2009年夏から、長崎の皆さんの“龍馬伝”への期待が一気に高まっていきました。８月の出来事を２つあげると、１つは、さきほども述べた稲佐山公園野外ステージでのライブです。稲佐山の会場には３万人、ビッグＮスタジアムのパブリックビューイングには５万人が集まりました。続々と大型バスが長崎市内に到着し、単なるイベントではなく、街は「祝祭」といった様相を呈していました。

もう１つは、手前味噌ですが“龍馬伝”ポスターの登場です。黒い背景に、懐に手を入れた福山龍馬の立ち姿です。街のあちこちに飾られたのでどこかでご覧いただいたでしょ

う。これが、コンサート直前に届き、早速、NHK長崎放送局にも掲示しました。コンサートに訪れた方々が写真を撮っていきました。その数の多さに驚きました。このポスターを含めその年のうちに制作した３種のポスター、合計で１万枚以上を長崎県内に提供いたしました。皆さんが目立つところに貼っていただいたおかげで、ポスター自身も話題になり、“龍馬伝”に向けた機運が一気に盛り上がっていきました。

紅白で福山さんが熱唱

2009年の年末にかけては、前景気をあおろうと、NHK長崎放送局では龍馬伝関連番組を多数放送しました。アニメ「おーい！竜馬」の全話を一挙放送しました。「歴史秘話ヒストリア」で海援隊を取りあげました。長崎と龍馬のつながりを全国的な認知にしてもらおうと取り組みましたが、決定版は紅白でした。

去年の紅白で、福山さんが長崎で歌ったことは皆さんもご記憶と思います。これにはいろんな異例なことが重なっていました。次期大河ドラマの主役の方は、通常は、審査員になっていただきます。次期大河の主役が、紅白で歌うというのは異例のことです。演出の方針として、NHKホールで歌っていただくことが基本でしたので、中継で歌うことも異例でした。この時、中継で歌ったのは福山さんだけでした。そして、中継先が大河ドラマのスタートする高知県からではなく長崎だったというのも、長崎にとっては嬉しいサプライズでした。一部スポーツ紙などでは、事前に中継場所は高知の桂浜と報じましたが、当初から、長崎で中継するという方針が変わることはありませんでした。

最終的には、グラバー園からの中継になりましたが、実は帆船上など、他の場所も検討しました。結果的には強い風も吹いていましたので、安全な陸上から、さらに小雪も舞う中の幻想的な映像は大成功でした。龍馬と長崎の結びつきを全国にアピールする絶好の機会となりました。

2010年龍馬イヤーの幕明け

2010年の正月は、龍馬関連の展示施設が次々とオープンする龍馬イヤーにふさわしい幕明けとなりました。１月２日に「長崎まちなか龍馬館」、９日には長崎歴史文化博物館の「龍馬伝館」がオープンしました。２月に入って「ハウステンボス龍馬伝館」もオープンしました。いずれも会期はおよそ１年、2009年夏にオープンした亀山社中記念館とともに、龍馬イヤーの観光の目玉になっています。

今年２月のランタンフェスティバルは、大勢の観光客がつめかけ長崎市内は大変なにぎわいでした。少年時代の龍馬を演じた濱田龍臣くんもパレードに参加した週末には、龍馬関連の観光施設に相当数のお客さんがつめかけました。龍馬目当てのお客さんがランタンフェスティバルに感動する、ランタン目当てのお客さんが龍馬関連施設にも足を伸ばす、そういう相乗効果が感じられた期間でした。

秋のくんちの時期にも、そういう相乗効果を期待できるのではないかと思います。

長崎ロケ ～長崎の人たちがドラマを作る

ドラマが始まると、今度は「長崎でロケはありますか。いつですか。どこでありますか。」という質問攻めに遭いました。長崎がドラマの実際の舞台になることを楽しみにしていることの表れで嬉しいことでした。ただ、福山さんは大変な人気者ですから、事前に情報をお伝えすると大勢の方が殺到して事故がおきる可能性もありました。結果として、事前にロケについての情報をお伝えせず、事後報告の形で、ロケの様子についてニュース番組などの中で、お知らせすることになりました。

長崎でのロケは2回、2月に大村湾、5月に長崎市内および佐世保市浅子で実施しました。

大村、長崎ともに大勢の地元エキストラの皆さんのご協力で大変順調にすすんだと聞いています。ドラマが放送される時、出演者や協力者を紹介するクレジットに「大村市」や「長崎市」の文字が出てくると私も嬉しくなりました。エキストラとして参加されたり、ロケに協力いただいたりした方々は、大河ドラマを一緒に作り上げたことをいい思い出と言ってくださいます。長崎が舞台というだけでなく、長崎の人たちが一緒になって作ったドラマが“龍馬伝”です。そうした経験や思い出を語り継いでいただくことで、“龍馬伝”は一過性のものでなく、長崎に根づいていくものになると思います。

長崎局オリジナルパンフレット

また、長崎市のロケは、崇福寺、大浦天主堂、グラバー邸といった長崎の代表的な風景の中で行うことが許され、地元のご協力に本当に感謝しています。なお、崇福寺の二つの建造物と大浦天主堂は国宝、そしてグラバー邸は重要文化財という中でのロケでした。細心の注意を払ってロケを行わせていただいたことを付け加えておきます。

「クライマックス龍馬」に向けて

“龍馬伝”が第3部に入り、いよいよ長崎が舞台となった途端たくさんいただくようになった質問は「長崎はいつまで出るんですか？」です。「長崎は、最後まで出ます」と答えています。第3シーズン以降、龍馬の活動拠点は亀山社中、その後名前を変えた海援隊であり、ずっと長崎です。薩長同盟、大政奉還を実現するため下関、京都などと盛んに行き来する龍馬ですが、仲間のいる拠点は常に長崎です。さまざまな事件も長崎で起きます。最終回になる龍馬暗殺の時も、長崎で留守を守

る海援隊士たちのエピソードも出てくると聞いています。最終回まで息を抜くことなく長崎を盛り上げていただきたいと思います。

この秋はくんちと連動して、最大の盛り上げをはかります。長崎歴史文化博物館では、大河ドラマ特別展「実録・坂本龍馬」が10月２日から11月３日の日程で開かれます。NHK長崎放送局では会館公開を10月２日に実施します。また、今年はくんちが終わっても、10月10日は日曜日、11日は祝日と休日が続きます。くんち見物の観光客が、さらに滞在をのばして龍馬関連の観光に足を運ぶ可能性があり、そうした誘導をはかっていくことも必要だと思います。

“龍馬伝”をさらに活かすには

今後“龍馬伝”という財産を活かすための２つのキーワードがあります。それは「アジア」と「地域連携」です。

鹿児島では、「篤姫」放送終了後も台湾からのお客さんが観光客の落ち込みを食い止めました。“龍馬伝”も、正式な発表はまだですが、台湾、韓国などでの放送が検討されていると聞きます。篤姫の前例を活かしアジアへの働きかけは有効でしょう。

「地域連携」は、全国各地の龍馬関連市町村との連携です。高知、京都、福山、下関、霧島など、今回の放送で交流の深まった都市があちこちにあります。長崎を訪れた人の中には、「高知にも京都にも行きました」という方が少なからずいらっしゃいました。こうした人たちを増やすため、例えば、全国共通の認定証を作り、高知桂浜、京都霊山、長崎亀山社中などで、認定証に判を押し、全国各地の龍馬関連の土地を巡って押された判の数で、龍馬に対する愛情度の格付け認定をしていくような、スクラムを組んで取り組めること、みんなが参加してハッピーになることが実現するといいなあと思っています。

今後、「ポスト“龍馬伝”」が盛んに議論されると思います。新たなテーマ、観光資源の掘り起こしは必要でしょう。その中に、継続的な龍馬関連の観光も入れていただきたいと思います。だんだん、ほこりをかぶっていかないよう、整備された龍馬関連観光施設は今後も常にブラッシュアップしてくだされればと思います。“龍馬伝”をきっかけに、長崎の財産がたくさん生まれました。皆さんとご一緒にこの財産を大切にしてまいりたいと考えています。

長崎局ホームページ“龍馬伝”情報～とこしえ龍馬、長崎
http://www.nhk.or.jp/nagasaki/ryomaden/